

矮性丸莢インゲン新品種『ピテナ:BN-123』 の特性と栽培の要点

雪印種苗(株)
園芸作物研究グループ
野菜研究チーム主任 大橋真信

1. はじめに

青果用サヤインゲンの栽培は、収穫から選別、箱詰めまでの出荷作業にかかる労力が大きく、生産者の高齢化に伴って出荷量の減少が大きな問題となってきました。市場では需要に対して産地からの供給量が足りないため、生産の拡大を積極的に働きかけており、価格も全般に野菜の価格が低迷している近年でも比較的高値安定で堅調な動きとなっています。このため、サヤインゲンの栽培は生産者にとって魅力ある作物とも言えます。

一方で、近年は海外産冷凍野菜の残留農薬問題の影響もあって、北海道を中心に冷凍加工用のサヤインゲン栽培が増加傾向にあります。加工用の栽培では露地栽培で機械による一斉収穫を行うことから、倒伏しにくく、莢の太りになるべく斉一に揃う品種が求められます。

今回、莢の形状が優れ秀品率が高く、一斉収穫および長期収穫にも向く新品種「ピテナ(BN-123)」を発表しましたのでご紹介いたします。

2. 新品種『ピテナ』の特性

1) 熟期

開花始め、収穫始めて「ベストクロープキセラ(以下「キセラ」)よりも4~5日遅い中生種で、一斉収穫における収穫適期は「キセラ」よりも5~7日、「スノークロップネリナ(以下「ネリナ」)よりも7~10日遅くなります。

2) 草姿

「キセラ」および「ネリナ」よりも小葉で草勢がおとなしく、コンパクトな草姿です。主茎が太くしっかりしており、倒伏や分枝の折損に強い傾向があります。



▲「ピテナ」の草姿(ハウス栽培)



▲「ピテナ」の莢の形状

3) 莢の形質

「キセラ」よりやや短めで揃う丸莢品種で、莢の肥大が緩慢なため一斉収穫でも莢の形状が揃います。莢色は「キセラ」よりもやや濃く、退色も遅いです。また、サヤインゲンは高温などのストレスにより曲がり莢の発生が多くなりますが、「ピテナ」は曲がり莢が極めて発生しにくく、高冷地の夏穫り栽培にも適します。

4) 収量性

長期収穫、一斉収穫ともに「キセラ」「ネリナ」よりやや着莢数は少なめですが、秀品率が高いため収量性は同程度かやや良好です。

ハウス栽培品種比較試験 平成21年4月28日播種 7月3~29日 14回収穫

北海道研究農場(長沼町)

品種名	収穫開始 (月/日)	草丈 (cm)	莢色 9(濃)-1(淡)	曲がり 9(少)-1(多)	莢長 (cm)	莢幅 (cm)	総莢数 (本/株)	規格内 莢数 (本/株)	平均 一莢重 (g)	規格内 収量 (kg/10a)	規格内 率 (%)
ピテナ	7月7日	64	7.3	6.3	13.4	0.63	89.6	71.8	2.86	759.3	82.5
スノークロップネリナ	7月3日	84	5.3	5.7	12.6	0.66	80.8	52.4	3.55	651.1	67.3
ベストクロープキセラ	7月5日	77	6.3	5.3	14.7	0.59	86.8	54.8	2.88	583.7	65.6
サマーキセラ	7月4日	69	6.0	6.0	14.5	0.6	105.8	82.8	2.52	772.6	79.6

露地一斉収穫栽培品種比較試験 平成23年5月31日播種 8月5日収穫調査

芽室町現地試験圃場

品種名	一株重 (g)	草丈 (cm)	莢色 9(濃)-1(淡)	曲がり 9(少)-1(多)	莢長 (cm)	莢幅 (cm)	総莢数 (本/株)	規格内 莢数 (本/株)	平均 一莢重 (g)	規格内 収量 (kg/10a)	規格内 率 (%)
ピテナ	388	71	7.5	7.0	13.8	0.66	56.4	39.4	4.06	1212.1	81.9
スノークロップネリナ	440	66	6.0	6.0	13.8	0.74	57.6	43.2	4.14	1354.5	81.1
ベストクロープキセラ	290	71	6.5	5.0	15.9	0.71	45.8	22.4	4.08	692.4	63.1

3. 適応地域と作型

1) 長期収穫栽培

一般地、暖地での春～初夏穫り栽培（ハウス、トンネル）および秋穫り抑制栽培（露地）、冷涼地での春播き夏穫り栽培（ハウス、露地）に適します。

加温ハウスによる越冬栽培についても栽培は可能ですが、「キセラ」で行われているホルモン（ジベレリン）処理による蔓化栽培では、ジベレリンに対する反応がやや鈍く蔓化しにくいいため適しません。

2) 一斉収穫栽培

一斉収穫を目的とした栽培（露地）については、冷涼地では春～夏播き夏～秋穫り栽培、一般地、暖地では初春播き初夏穫り栽培および晩夏～初秋播き秋穫り栽培が可能です。

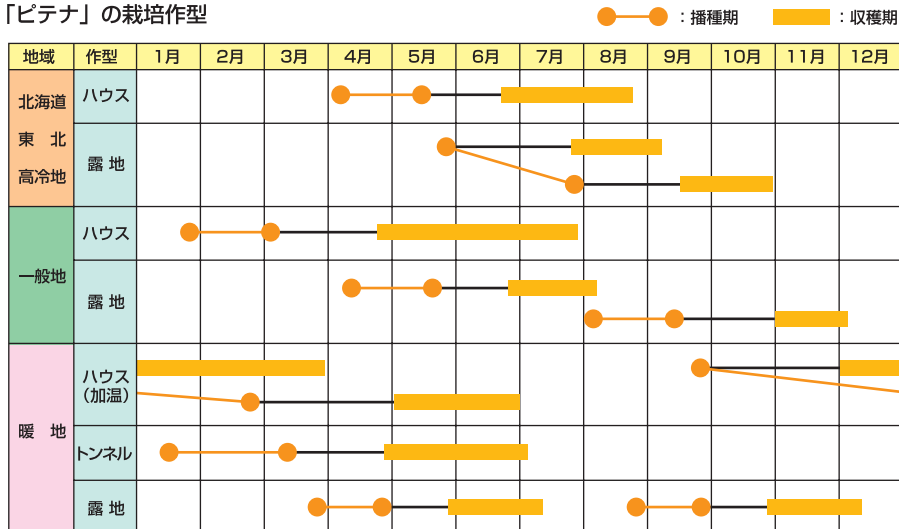
4. 栽培の要点

1) 肥培管理

「キセラ」や「ネリナ」と比べて草勢がおとなしいため、草勢を確保することが多収のポイントです。このため長期収穫ではハウス、露地栽培ともマルチ栽培を基本とし、肥沃な圃場を選定して生育状態に応じて追肥を行うなど肥料切れに注意します。

一斉収穫（露地栽培）でも肥沃な圃場を選定することが望ましいですが、過繁茂になりすぎると倒伏の原因にな

「ピテナ」の栽培作型



りますので窒素肥料の多用には注意が必要です。

2) 栽培管理

種子がやや小粒のため、播種時の水分状態、土質等に注意します。特に播種直後の多量の灌水は発芽不良の原因になるので注意が必要です。

倒伏には強い品種ですが、長期収穫の場合は早めに支柱を立てて誘引を行い、収穫が始まった後は不良莢や老化した葉を取除いて新陳代謝を高めるとともに受光量を確保することが多収につながります。また開花期以降はこまめに少量ずつ灌水を行うようにし、土壌が過湿にならないよう注意が必要です。

開花後に生育が優れない場合や、天候不良の時は植物活力資材「ジャックスパワー」の施用も効果があります。

3) 収穫

「ピテナ」の莢は「キセラ」よりもやや短めに揃うので、11～13cmを目処に収穫します。なるべく高温時の収穫を避け、収穫後は速やかに涼しい場所へ移動して調整作業を行うようにします。太りが緩慢で退色が遅いため見た目上在圃性は良好ですが、極端な取り遅れは子実が肥大し品質が低下するので注意してください。

5. さいごに

今回ご紹介しました「ピテナ」は青果向けの長期収穫および機械による一斉収穫にも適し、幅広く栽培が可能な品種です。「ピテナ」の特性をご理解いただき、サヤインゲンの安定生産につながることを期待しております。



▲ 「ピテナ」の栽培風景



▲ 一斉収穫での「ピテナ」の莢 莢の大きさが揃う